

大原幽学と性学門人集団

前夜組織の成立と展開

松丸明弘

OHARA Yugaku and Groups of Sei-gaku Disciples: the Formation and Development of the Zen'ya Organization

はじめに

- ①漂泊の幽学と性学門人集団
- ②「前夜」を中心とする門人集団の成立
- ③前夜組織の活動と幽学の行動
おわりに

【論文題目】

大原幽学は、近世後期の東総地域において、「性学」と呼ばれる精神修養的実践と先祖株組合などの経済技術的実践の両面の実践で農村の改良運動を進めた人物である。幽学の性学仕法と呼ばれるこれらの実践は優れて効果ある実践として、農民間で評価され、多くの門人を獲得したが、幕府の嫌疑のかかる所となり、やがて牛渡村一件から始まる足かけ六年もの長期の裁判に及び、最後は、安政五（一八五八）年に自殺を遂げた。本稿は、この幽学について易や人相、あるいは和歌などで生活の糧を得ていた漂泊期から、幽学の説く性学が東総地域、特に長部村を中心に興隆し、最後には「改心楼」なる教導所を建設するに至るまでの時期の、特に幽学とその門人集団を明らかにし、彼らの作りだした組織について考察したものである。幽学の説く性学が、天保後期から僅か数年で六〇〇人以上の門人を獲得するまでに至つたのは、ただ単に幽学個人の活動だけで成しえたものと考えるには無理がある。また從来の幽学関係の

著作物に見られるような幽学の顕彰過程の中で、実践のすべてを幽学に帰すると、より方法論にも問題がある。やはり重責を担った長部村の遠藤良左衛門や諸徳寺村の菅谷又左衛門に代表される高弟たちの存在と彼らが中心となつて作りだした「前夜」に代表される組織に目を向けていく必要がある。本稿では、東総一帯で幽学が活動をおこなう過程で、支配機構の枠組みを越えてつながり、活発に活動を展開する組織が、農民自らの手で生み出されたが、それはどのような組織であったかについて、その具体像を明らかにした。この組織が、幽学の活動を支え、教導所である「改心楼」を建設することになる。そして「改心楼」の設立から牛渡村一件に密接に関わっている点で、幽学の性学活動を考える上で重要である。また、成田市域の門人集団や信州の上田・小諸の門人集団、さらに幽学の江戸訴訟に登場する高松家との関連についても明らかにした。